

景気の動き

四 国（四経連「景気動向調査」結果）

項 目	6 月判断	前回（2026年 3 月判断）
調査結果の概要	四国の景気は、一部に中東情勢緊迫化の影響がみられるものの、総じて持ち直しの動きが続いている。	四国の景気は、総じて持ち直しの動きがみられる。
経営者の景況感	慎重な見方が広がっている	明るさが続いている
生 産	持ち直しの兆しがみられる	持ち直しの動きに足踏みが続いている
輸 出	持ち直しの動きがみられる	同左
在 庫	「過剰」・「やや過剰」とする割合がやや低下している	「過剰」・「やや過剰」とする割合がやや上昇している
企業業績	引き続き良好に推移している	同左
設備投資	堅調に推移している	同左
雇 用	引き続き良好な状況となっている	同左
個人消費	引き続き堅調に推移している	全体として回復が続いている

〔四国経済連合会 2026年 6 月24日発表〕

全 国（月例経済報告・内閣府）

項 目	6 月月例	5 月月例
基調判断	景気は、緩やかに回復しているが、中東情勢の影響を注視する必要がある。 （ 先行きについては、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果が緩やかな回復を支えることが期待されるものの、中東情勢の影響を引き続き注視する必要がある。また、金融資本市場の変動の影響などに注意する必要がある。 ）	同左
個人消費	持ち直しの動きがみられる。	持ち直しの動きがみられる。ただし、消費者マインドがこのところ弱い動きとなっていることに注意が必要である
設備投資	持ち直している	同左
住宅建設	弱含んでいる	同左
公共投資	堅調に推移している	同左
輸出入	輸出	このところ持ち直しの動きがみられる
	輸入	おおむね横ばいとなっている
	貿易・サービス収支	おおむね均衡している
生 産	横ばいとなっている	同左
企 業	収益	改善の動きがみられるが、中東情勢の影響を注視する必要がある
	業況判断	おおむね横ばいとなっている。ただし、先行きについてはやや慎重な見方となっており、中東情勢の影響を注視する必要がある。
	倒産件数	おおむね横ばいとなっている
雇用情勢	改善の動きがみられる	同左
物 価	国内企業物価	このところ上昇している
	消費者物価	緩やかに上昇している

〔内閣府 2026年 6 月30日発表〕